新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画　令和元年度取組結果

資料2

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画										
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	令和元年度上半期の状況	⑤令和元年度下期取組状況	年間達成度 ⑥ 達成度	年間達成度 ⑦ 評価	⑧最終年度に向けての問題点等	⑦備考 その他
1. 常設展示の再構築	琵琶湖の魅力を発信し、現在とつながる展示空間	交流や対話が生まれる賑わいのある展示室 地域の人々と創りあげる展示	各展示室リニューアル		第1期整備（C・水族）		第3期実施設計（A・B）	第3期工事（A・B）	4月に起工・入札公告、5月に仮契約締結、6月議会の議決を得て本契約締結し、着工	4月2日　起工（上申） 4月22日　入札公告 5月16日　入札開札 5月23日　仮契約締結 7月2日　本契約締結（6月議会で可決）、着工	工事進捗管理 工事の目標出来高（30%）達成見込み	100%	◎	－	
			研究成果に基づく常設展示の構築と新しい交流空間での学びの提供	常設展示・交流空間の更新	研究成果に基づいたC・水族展示室の展示作成	交流空間(第2期）への研究成果の反映方法の検討	交流空間の整備	研究成果に基づいたA・B展示室の再構築	最新の研究成果を元に、展示資料準備、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を執筆	研究成果を盛り込みながら、順次展示物の製作を行っている	ほぼ順調に工事が進んでいる	100%	◎	－	
				新たな展示における恒常的な最新成果の反映	C展示室「研究スタジアム」による発信			更新	7月に更新を行った		－	100%	◎	－	
							おとなのディスカバリーにおける学びの提供	→							
			資料の活用		蓄積した生物標本の活用 新規飼育生物飼育開始	交流空間(第2期）用資料準備	交流空間(第2期）資料設置 資料検索システム設置 AB展示室用資料準備	AB展示室用資料準備	展示予定資料の情報整理、登録準備および展示準備	展示計画に沿った資料情報の整備、整理計画	展示する資料を新たに収集・整理するとともに、所蔵する資料から選定・補修・補強した。また、他館所蔵資料の借用の協議および複製品の製作などを行った	90%	○	おおむね予定通りに進行中 展示する資料以外の寄贈資料の整理が必要	
			運営体制の確立		運営体制の検証	運営体制の修正	運営体制の改善	運営体制検討	展示交流員の配置増の検討、展示交流員の館内の連絡手段の改善、 交流スポットでの来館者との交流	展示交流員の配置増の検討、PHSを各ポストに配布、 交流スポットは例年冬場に活用	2月22日より観覧券発売システムを導入することで、券売業務の効率化を図る	100%	◎	グランドオープンを迎え、来館者増に見合う展示交流員の確保の予算獲得が今後の課題である	
2. 交流空間・交流機能の 再構築	見える・伝わる・広がる交流空間・交流機能	おとなも楽しめる仕掛け・プログラムを充実 展示室や交流空間で来館者に見える交流をする 見える・伝わる・広がる参加と交流	おとなのディスカバリー ディスカバリールーム わくわく体験スペース レストラン・ショップ		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備	完了							
						運営体制検討	運営 ラボの利用　88件 交流コーナー利用　2件	運営体制の検証	おとなのディスカバリーのオープンラボでの実演、交流	オープンラボの利用60件、 びわ博フェスにおいて交流を計画・実行	オープンラボの利用は130件 びわ博フェスではしかけによる交流を実施	100%	◎	－	
		樹冠トレイルで博物館から琵琶湖 屋外フィールドへ誘う 琵琶湖を感じる・体験する交流	樹冠トレイル		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備	完了							
						博物館周辺散策マップ検討	博物館周辺散策マップ作成	ガイドブックの検証	樹冠トレイル＆屋外展示ガイドブックの販売、 屋外展示でのガイドツアーの開催	ミュージアムショップでガイドブックの販売を開始、 はしかけ森人による樹冠トレイルガイドを1回実施、 森人に夜おとなのディスカバリーを利用した交流活動の実施1回	ガイドブックは、ショップを通して販売中	100%	◎	将来的には、利用者の意見等を取り入れて内容の改善を検討していく	
		学校・一般団体向けの屋内昼食場所	団体用屋内昼食スペース		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備／運用開始	完了							
		博物館の活動に参加しやすい仕組みづくり	はしかけ制度の充実	担当学芸職員を増やしグループを多様化	学芸職員の6割以上	学芸職員の7割以上	学芸職員の8割以上	担当学芸職員を増やしグループを多様化	担当学芸職員を増やしグループを多様化	平成27年度18グループだったのが、令和元年度26グループになった	新規グループへの担当学芸職員を増やした	100%	◎	－	
			フィールドレポーター制度の新展開	ICTを活用したレポート機会の充実でレポーターのスキル向上	地域情報システムの設置（C展示室）	地域情報システムを活かしたレポート体制の構築	ウェブの地図情報の活用により、精密な調査結果を作成	→							
			地域環境交流室の運営	会議やワークショップ・発表に使える空間の提供		別館の運営要領を策定	別館の利用募集開始	別館の利用の実績にもとづいた改良	係・館全体に関わる主催・共催事業を中心に実施	企業連携や教員研修会場として使用、 引き続き利用募集	企業連携や会議・研修会場として使用	100%	◎	－	
			教員用ガイドツールの作成		教員用ガイド2種(試作版）を作成	試作版ガイドの提供と検証	2期リニューアル成果を反映したガイドを作成	教員用ガイド2版の検証・改善	展示ガイド検証と試用	教員研修会で活用方法の提案と試用を実施	教員研修会で活用方法の提案と試用を実施	100%	◎	－	

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画							年間達成度		⑧最終年度に向けての問題点等	⑦備考その他
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	令和元年度上半期の状況	⑤令和元年度下期取組状況	⑥ 達成度	⑦ 評価		
		学校向けのプログラムの充実	新体験プログラム開発		生き物コレクションをテーマにしたプログラムの開発	生き物コレクションプログラムの検証・改善	おとなのディスカバリーに即したプログラムの開発	おとなのディスカバリーに即したプログラムの検証	県内小学生を対象に活動内容を検証したが、学校団体での利用には適していないことから屋外展示を利用した低学年向けプログラム開発に移行	屋外展示を利用した低学年向けのプログラムの開発	県内小学校低学年の児童に対して、屋外展示を利用した体験プログラムを実施	100%	◎	低学年の児童のため指導者数の確保が困難	
		地域での実践を担う「人が育つ」博物館へと進化	「人が育つ」カリキュラムの開発と実践	体系的な講座・ワークショップ／館外の人を含む実行委員会	方針検討	講座・ワークショップのカリキュラム・運営方法決定	連続講座・ワークショップ開催	館外の人を講師とする講義・ワークショップの導入 (目標：1/2以上)	研究部と交流係が連携して、リニューアルするA展示室に関連した内容を高校以上の参加者にわかりやすく解説する新琵琶湖学セミナーを開催	2020年の1月～3月までに3回行うセミナーの各テーマと講演者を決定	2020年の1月～3月までに3回新琵琶湖学セミナーを開催 (館外の講師1/2)	100%	◎	―	
			地域で活動する人の情報交換の場づくり	課題別交流会の運営ノウハウ確立	ビオトープ運営者の交流会 (1年目：課題の共有)	ビオトープ運営者の交流会 (2年目：抽出した課題の解決方法を共有)	ビオトープ運営者の交流会 (3年目：共有した解決方法の実践結果の報告)	ビオトープ運営者の交流会 (4年目：成果まとめと発信)	学習プログラム開発をテーマとしたワークショップの開催、その成果を各所属に持ち帰って、新たな学習プログラム開発	ビオトープ運営者と協議し、今年度末に、学習プログラム開発をテーマとしたワークショップの開催	2/27に積水樹脂(株)竜王工場にて開催予定。ワークショップ形式で、学習プログラム開発の基本を学ぶ取組を実施	100%	◎	企業の環境学習活動への意識は高く、今後は他の主体との連携を促進する	
			ウェブサイト「エコロし～が」の改良			利用状況と使い勝手調査	調査結果の分析と改良	エコロし－が改良案の作成	ウェブサイト再構築に向けた業者打ち合わせと見積作成	業者との打ち合わせを行い、再構築のための見積を作成	過去情報を精査し、環境学習活動のリアルタイム情報に特化する方針を決定	100%	◎	県庁サーバーへの移行を検討	
3. 利用者の利便性・快適 性を高める施設整備	ICTの活用	来館者が快適で楽しく情報を得られるシステムの整備	デジタルサイネージ		設置		―	完了							
			多言語音声展示ガイド		ガイド整備		第2期分コンテンツ追加	第2期分まで完了							
			無料公衆Wi-fi整備		図書室に整備			完了							
	ユニバーサルデザインの推進	誰でも安心して利用できる博物館	高齢者や福祉団体の休憩室整備		第2期実施設計	第2期工事	第2期整備(完成)	完了							
		誰でも容易に理解できる表示	わかりやすい館内サイン／多言語対応／読みやすい解説パネル		第1期整備 第2期実施設計	第2期工事	第2期整備 第3期実施設計	第3期工事	4月に起工・入札公告、5月に仮契約締結、6月議会の議決を得て本契約締結し、着工	4月2日　起工(上申) 4月22日　入札公告 5月16日　入札開札 5月23日　仮契約締結 7月2日　本契約締結(6月議会で可決)、着工	工事進捗管理 工事の目標出来高(30%)達成見込み	100%	◎	―	
					サイン・パネルの検証	サイン・パネルの修正	サイン・パネルの検討	サイン・パネルの作成	駐車場から博物館への案内サインの設置	6月に6基を設置し、その運用状況を踏まえて7月に1基を修正した	案内サインを10月に1基追加 グランドオープンに向け館内のサイン修正箇所をリストアップし、修正の計画を立案	90%	○	修正計画に基づき、サインを設置	
		利用者が参加する使い勝手の検証			UD検討委員会	UD検討委員会	UD検討委員会	UD検討委員会	第3期工事の本契約締結後、UD評価を開催する。	第3期工事の本契約締結 (7/2)	12月2日　UD評価開催	100%	◎	―	
4. 多様な主体との連携	地域との連携	地域の多様な主体との協同	地域と博物館の共同事業の検討および宣伝		検討の開始	検討結果のまとめ	共同事業の事例集を収集	共同事業のアイディア集を館内で共有	事例の追加募集	収集した事例が5件、さらに追加を募集	事例は8件まで増加 地域と連携した観察会、研究等は、着実に実績を積んでいるが、共有できていない	40%	△	地域主導の活動に対する協力について、積極的意義を再検討	
	学校との連携	学校による博物館利用の推進	地域を研究する中学生・高校生の交流会		博物館内での検討開始	学校教員とともに検討会をつくる	交流会の立ち上げ 交流会の開催	年2回以上の交流会・ワークショップの開催	交流会・ワークショップの開催	はしかけ梁山泊の活動の支援	米原高校地学部が日本学生科学賞の環境大臣賞を受賞するなど会員の研究が学会等で多数受賞 交流会は3月の予定	80%	○	―	
	関係団体との連携	環境問題解決のため試験研究機関や行政との連携を強化	琵琶湖環境研究推進機構への参加		「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」 最終年度	新「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究(第二期)」参加	新「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究(第二期)」参加	「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究(第二期)」最終年度	他の研究機関と連携を図りながら、研究を行う	継続して野外調査を実施した	中間報告をまとめ、滋賀県土木技術研究発表会で発表を行った	85%	○	―	
					「外来魚駆除に関わる研究」最終年度	「外来水生植物駆除に関わる研究」参加	「外来水生植物駆除に関わる研究」参加	「外来水生植物駆除に関わる研究」に参加	他の研究プロジェクトと連携しながら、担当学芸員を中心に研究を進める	継続して野外調査を実施し、行政による対策事業の具体的内容の立案に協力した	継続して調査を行っている	85%	○	―	
			琵琶湖再生法関連研究		南湖の沈水植物に関する研究(琵博・琵環研)	南湖の沈水植物に関する研究(琵博・琵環研・県立大)	南湖の沈水植物に関する研究(琵博・琵環研・県立大)	南湖の沈水植物に関する研究(琵博・琵環研・県立大)	南湖の沈水植物の継続研究調査を行う	定期的な観測を行った	近年の沈水植物の増減する仕組みについて、ほぼ解明と確信 現在、論文投稿中	90%	○	―	

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画							年間達成度		⑧最終年度に向けての問題点等	⑦備考その他
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	令和元年度上半期の状況	⑤令和元年度下期取組状況	⑥ 達成度	⑦ 評価		
			その他の連携		ILEC30周年記念展の実施 試験研究機関連絡会議	NORNAC滋賀県大会開催 試験研究機関連絡会議	試験研究機関連絡会議	試験研究機関連絡会議	10月の発表会に参加し、博物館から1件報告する	発表者を選出し、発表内容も確定した	発表会で研究発表を行った	100%	◎	－	
		他の博物館・美術館と連携し発信力を強化	共同イベントによる博物館の役割のアピール		佐川美術館との共同イベント	ICOM京都大会の準備、 県博協35周年記念事業	ICOM京都大会の準備	ICOM京都大会	9月の本会議に向けてエクスカーションの準備	京都大会に参加 9月にエクスカーションを実施	－	100%	◎	－	
		近隣施設と連携し地域の活性化と集客増	イベントの共同開催や広報における協力	烏丸半島活性化協議会への参加	イベントチラシ作成、スタンプラリーの実施	チラシ作成、 共同イベントの企画・検討	共同イベントの実施 （リニューアルイベント等との共同実施）	チラシ作成、 共同イベントの企画・検討	ウォーキングマップの作成、スタンプラリーの実施	ウォーキングマップを作成中、下期におけるｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰの準備	ウォーキングマップを作製・配布 スタンプラリーの実施	100%	◎	－	
	企業・大学との連携	訪問活動による連携と博物館利用の促進	企業・団体等	リニューアルサポーター・企業メンバーシップ・水槽サポーター制度による支援と博物館利用の促進	県内拠点企業等訪問 企業の環境保全活動等紹介	流域府県の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	流域府県外の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	→			県外企業等の訪問 企業サポーター交流会の開催、 新規寄附者の環境保全活動の紹介	100%	◎	－	
			大学・短大等	キャンパスメンバーズ制度による学生の博物館利用の促進	キャンパスメンバーズ制度整備	県内大学・短大等への訪問	流域府県の大学等へ対象拡大	流域府県外の大学等へ対象拡大	更新の働きかけ 新規先への営業活動	前年度参加大学の内、2大学不参加、1大学未更新、1大学新規加入	パスチケットのPRなど、学生への来館の呼びかけ	80%	○	学生らの利用促進に向けた取組や呼びかけが必要	
5. 広報・営業活動の強化	広報・営業活動の強化	国内知名度の向上	ターゲットを想定し情報発信		第1期リニューアルの情報発信(京阪神の子連れ家族)	第1期リニューアルの情報発信(京阪神の子連れ家族)	第2期リニューアルの情報発信(＋大人)	第2期リニューアルの情報発信(＋大人)	旅行誌等への掲載 インスタグラムの開設と情報発信	掲載対象の選択 インスタグラム投稿数34、フォロワー数172人	旅行誌(Leaf)等への掲載、 インスタグラム投稿数110、 フォロワー数1,030 リニューアル工事の様子等の掲載	80%	○	新たなファン（大人層）とリピーターの増加、定着に向けた広報の展開が必要	
			魅力的なイベント開催によるパブリシティ	リニューアル関連情報の発信	第1期リニューアルオープン／開館20周年記念事業	東京「情報発信拠点」の活用開始	第2期リニューアルオープン記念事業		ここ滋賀での「サイエンスセミナー」の開催	ここ滋賀で「サイエンスセミナー」を2回開催(4月、7月）		100	◎	－	
				定常的イベントによる発信		びわ博フェス（仮称）／アトリウムコンサート	びわ博フェス（仮称）／アトリウムコンサート	びわ博フェス（仮称）／アトリウムコンサート	ナイトミュージアムの開催 びわ博フェス（仮称）の開催 アトリウムコンサートの開催	ナイトミュージアムの実施、 びわはくフェス、アトリウムコンサート開催の計画策定	びわ博フェスの実施(10月19日、20日） アトリウムコンサートを12月に4回実施	100%	◎	－	
			旅行関係機関への働きかけ		提案資料・旅行プランの準備・作成	首都圏：修学旅行誘致キャラバンに参加 京阪神：旅行代理店訪問	旅行代理店をリニューアルイベントへ招待	首都圏：修学旅行誘致キャラバンに参加 京阪神：旅行代理店訪問	パンフレット作成 添乗員向け館内ツアーの実施 「琵琶湖博物館」来館を含む旅行商品の造成 旅行施設、観光施設との連携	専門業者への作成委託 パンフレット完成 館内ツアー（8/22）	県内宿泊施設との連携企画(チラシ持参でプレゼント)を1月以降実施 旅行会社との情報交換会に出席 SDGsを使った教育旅行用の資料を作成し、旅行会社に提示	100%	◎	－	
			流域府県の学校の利用促進	教育委員会や校長会との連携強化	利用実績分析、対策検討	流域府県の学校に働きかけ		対象地域の拡大	パンフレット作成 教員向け館内ツアーの実施 流域府県の学校訪問	パンフレット完成 館内ツアー（8/22） キャラバンへの参加	大阪府下の小学校へパンフレット配布　184校	80%	○	－	
			ウェブを利用した認知度と利用者利便性の向上	ウェブサイトの再構築（UD化・多言語化含む）		自治体セキュリティクラウドへ移行／基本ページ再構築	博物館紹介ページ追加 多言語化システム導入	研究や成果に関するページ追加（調べものができるサイト構築）	新しいウェブサイトに合わせた博物館の研究部を紹介するページの内容の作成	ウェブサイトのレイアウトに合わせた内容の検討	引き続き検討作業中	60%	△	－	
		海外認知度の向上（インバウンド招致）	外国向け広報資材作成	パンフレット（日・英）	パンフレット作成		パンフレット改訂	第2期分完了							
				展示ガイド冊子（英・中）	ガイド冊子作成		ガイド冊子改訂	第2期分完了							
				総合展示ガイド（日・											
				ウェブサイト用PR資材		外国向PRパンフ作成、ウェブ掲載	→								
			旅行関係機関に働きかけ		びわこビジターズビューローのインバウンド部会と情報共有	博物館の外国語資料を周辺宿泊施設（部会メンバー）に設置	海外旅行博への資料の提供、海外旅行代理店招請事業への参加	→			海外向けパンフレット等に資料を提供	80%	○		
		料金体系の検討	利用しやすい料金体系を検討する		メンバーシップ制度の導入 年間観覧券制度の改正（27年度実施）	キャンパスメンバーズ制度の導入 現行料金体系の検証		リニューアル後の料金体系の検討	グランドオープン後の観覧料について、検討	検討中	リニューアル後に観覧料を改正予定	100%	◎	－	
	アクセスの向上	バスの増便			バス会社との情報共有	バス会社と利用促進策検討	利用促進イベント（リニューアルイベント等でのバスの活用）	増便に向けた協議継続	イベント時の増便 バス割引チケットの発行	ナイトミュージアム時の増便（11便）	バスでの来館時に利用できる復路のバスチケットプレゼントキャンペーンの実施	100%	◎	－	

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画											
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	令和元年度上半期の状況	⑤令和元年度下期取組状況	年間達成度		⑧最終年度に向けての問題点等	⑦備考 その他
												⑥ 達成度	⑦ 評価		
	アクセスの向上	湖上交通			お盆期間の臨時遊覧船(琵琶湖汽船)を博物館来館者へPR	臨時遊覧船の継続・増便を要請／PR協力	利用促進イベント(リニューアルイベント等での船舶の活用)	大津港他⇔烏丸半島港便の運航の要請	大津港他⇔烏丸半島港便の運航の要請	定期航路の要請を検討中 夏休みの「ミシガン」で博物館との連携企画の実施	―	80%	○	―	
6. 資料を利用しやすい 博物館への進化と 飼育生物の計画的繁殖	資料活用の促進	重要なコレクションの活用	漁撈用具コレクション国登録		文化庁による全点調査開始	琵琶湖漁撈用具の国登録	ギャラリー展(春休み)	B展示室での展示準備	漁具の展示計画の作成、解説作成のための調査	展示資料の確定、各地漁協等で聞き取り調査を実施。	展示の施工詳細を確定し、聞き取りをもとにイラストを中心とした視覚的で分かりやすい展示パネルを制作	100%	○	―	
			古文書等の計画的公開		近江水産図譜を紹介する論文の公表	トピック展示	各古文書整備	目録作成と公開	居初家文書の目録作成とデータベースの公開	データベース公開に向けた問題点の確認	居初家文書の目録作成 目録の一部をデータベース公開	100%	○	―	
		寄贈コレクションの公開促進	寄贈されたコレクションの公開		標本・資料の整理			橋本鉄男文庫公開 伊谷純一郎文庫公開	寄贈された書籍の登録 データベースでの公開	橋本鉄男文庫は平成29年度末までに公開済み、 伊谷純一郎文庫は現在登録作業中	伊谷純一郎文庫の登録作業を実施 令和元年度末にはほぼ終了予定	100%	○	―	
		写真資料の継続的保存と公開の促進	フォトCDから媒体の乗り換え			フォトCDデータの媒体変換開始		完了			―			―	
			大橋コレクションの作成と公開		大橋コレクションの整理			大橋コレクションの整理完了	公開画像の選択　・DBへの仮登録	はしかけグループ：温故写新によって公開画像の選択作業中 データベースへの仮登録作業中	はしかけグループ：温故写新によって公開画像の選択は終了 データベースへの仮登録作業中	70%	△	早期公開に向けて、作業を進める	
	資料検索機能充実	クラウド型資料データベースへ移行		汎用システム移行でセキュリティと発信力を向上	移行準備(仕様確定)	システム移行	ウェブ上の収蔵品データ公開ページの再構築と公開	完了						今後は未公開分野の資料DBの構築、データ整備、公開を目指す	
		図書総合情報システムへの移行		全国共通図書館データベースに参加	移行準備(仕様確定)	図書管理システムの導入	OPAC導入・情報の一般公開	図書目録所在サービスに参加	図書目録所在サービスに登録データの公開	図書目録サービスに登録データを順次登録中	引き続き図書目録所在サービスにデータ登録中	100%	○	今後は所蔵資料全件登録を目指して作業を継続	
	飼育生物の計画的な繁殖	新たな飼育生物の飼育技術の確立	バイカルアザラシの繁殖	発情周期を把握し、飼育管理を調整	バイカルアザラシの安定的飼育体制確立	バイカルアザラシの発情周期の確認	発情周期コントロールのための水温調整	前年度を反映した水温調整および発情周期コントロール	昨年度の未達成事項である水温調整実施	計画通りの水温調整実施 雌雄とも正常な発情周期を確認	雌個体が妊娠するも死亡したため、繁殖計画中断	50%	△	―	
			カヤネズミの繁殖管理	管理計画を策定し、過剰な繁殖を抑制し健全な個体数を維持	防疫体制の確立・カヤネズミの繁殖	繁殖管理計画の策定	繁殖制限開始	計画的繁殖開始	合計40匹を目標に繁殖(ペアリング)を実施	4月、6月にペアリングを開始。	ペアリングを続けているが、下半期に入ってもまだ繁殖が見られない。 飼育個体数は35匹を維持	50%	△	全体的に個体の高齢化が進んでおり、繁殖が難しい可能性がある	
		日本産希少淡水魚の継続的な飼育	個体数減少種の入手と遺伝的な多様性の確保	他の施設との連携を強化し、資料交換や共同飼育	資料提供協力機関と入手が必要な種のリスト化	ネコギギの飼育繁殖事業に参加	ネコギギ以外の入手必要種の優先順位確定	交渉開始・順次入手	最優先種(ヒナモロコ)の入手 他施設との連携強化	次年度以降の繁殖に必要な個体を入手 分譲、共同飼育にて相手方施設で繁殖を確認	ヒナモロコの論文公表により遺伝情報を公開 他機関との連携強化し、入手継続を行う	100%	○	―	
7.「湖と人間」の関係を 考える研究の推進	琵琶湖の価値の発見につながる研究強化	琵琶湖地域の「湖と人間」の関係変遷を探る総合的な研究の推進	専門、共同、総合研究や外部資金を組み合わせた研究	(総合研究の課題) 琵琶湖地域の自然および自然観の通時的変遷に関する研究	研究報告会での中間報告	研究成果の整理	成果をまとめた本の編集	成果をまとめた本の発行とリニューアル展示への反映	研究成果をまとめた研究調査報告書を編集、発行する	一つ目の報告書原稿はほぼ完成し、関係する地元の方々に確認を依頼している	原稿と確認依頼が終了し、2月に印刷予定	85%	○	―	
				(総合研究の課題) 過去から現在までの琵琶湖淀川水系の自然と人の暮らしの変遷に関する研究	領域会議での新たな研究課題の検討	既存研究や資料の所在確認	具体的な研究計画の作成 総合研究の申請	総合研究の開始	まずは共同研究者同士でそれぞれの持つ情報を共有する	第1回研究会を開催し、お互いの研究内容や情報を共有した	2月15日の研究会で、今年度の成果と進捗状況を共有	85%	○	―	
		「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究 ・湖や固有種の成立 ・人の暮らしと生物の営み	協力連携機関との共同研究①古代湖	バイカル博物館(ロシア)、オフリド水生生物研究所(マケドニア)との連携	20周年記念シンポジウムおよび特別研究セミナーの開催	共同研究に向けた情報交換とプロジェクトの検討	共同研究の申請	共同研究の開始	今後の連携に向けて、共同研究の申請を行うとともに、具体的な連携について検討を行う	オフリド水生生物研究所との共同研究について、科研費国際共同研究加速基金に申請を行った	科研費は不採択	60%	△	科研費以外での研究交流の機会を検討	
			協力連携機関との共同研究②東アジアにおける琵琶湖淀川水系	水生生物研究所・湖南省博物館(中国)、洛東江生物資源館(韓国)との連携	洛東江生物資源館との合同セミナーの実施	洛東江生物資源館との協力協定締結、研究情報の交換・資料交換等の検討	研究情報や資料交換実施	日中韓の研究成果の発表交流	洛東江生物資源館で行われる合同セミナーに参加し、発表を行う	5月に訪問し、合同セミナーで発表を行った	―	100%	◎	―	
		「木から森へ」の博物館学の追求	博物館機能を活用した博物館学研究の推進	博物館学研究領域を中心とした方法の開発		領域会議での検討	具体的な研究計画の検討	共同研究の申請	共同研究の可能性を探り、研究計画調書を研究審査会に申請する	領域会議において、共同研究の可能性について議論を行った	新規共同研究を研究審査会に申請、採択	100%	◎	―	

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	行動計画											
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①令和元年度 重点取り組み項目(具体)	令和元年度上半期の状況	⑤令和元年度下期取組状況	年間達成度		⑧最終年度に向けての問題点等	⑦備考 その他
												⑥ 達成度	⑦ 評価		
	研究成果の発信力強化	一般向けへの発信	インターネットでの発信	研究成果に基づく情報ページを開設			コンテンツ構成案を作成	コンテンツ作成	具体的なコンテンツを作成する	研究者の個人ページの作成の検討、 電子図鑑の作成について検討を行った	引き続き検討を行っているが、具体的作成には至っていない	60%	△	新しいウェッブサイトのレイアウトや技術的課題を把握する必要がある	
			刊行物による発信	『琵琶湖博物館』を冠にした一般書籍の発行	出版準備（契約等）と 1～3巻刊行	4～6巻刊行と 講演会の開催	年2−3巻の刊行	年2−3巻の刊行	年度内に2−3巻の刊行を目指す	原稿はほぼ完成し、編集を待っている	3月までに、第10巻、11巻が刊行 他2巻分の原稿が完成、編集中	85%	○	−	